マングローブ環境物理学　松田義弘 著　東海大学出版会

皆川礼子

マングローブを様々な分野から解析し，その結果を還元していくことはマングローブの研究者にとって非常に喜ばしいことです。マングローブが陸域と海域のエコトーンであり，第３の生態系という位置づけをされてから，多くの分野の研究対象となってきました。昨今，津波や高潮に対する防潮林の効果が取り上げられマングローブの重要性も再認識されてきたところに、絶妙のタイミングで出版された本です。

「物理学」という表題がついており，難しい公式が書かれているとつい見逃してしまいそうになりますが，当初，この本には「干潟の生態系を支える海水流動」という副題がついていたことを著者から聞かされ，物理学が苦手ならば公式を飛ばして読んでもいいと勝手に理解させてもらいました。著者は海洋物理学の視点からマングローブを調査し，マングローブの維持，利用，再生には海水の動きが重要であることを説いています。そして，次の５点を考慮して執筆しています。

1）マングローブ域の生態系に対する物理課程の役割を啓蒙
2）マングローブ域における物理課程の特殊性を解説
3）マングローブ域に適した調査・解析手法を提示
4）マングローブ域の物理課程の若手研究者を育成
5）マングローブ域における物理課程の研究論文の整理

さらに，今後展開すべき研究課題と用語解説が加えられています。

読み終わったあと，この本に書かれていることは真実に基づいたデータ集だと気がつきました。世界各地のマングローブ林で長期にわたり調査したデータが整理され，マングローブ林のすみずみまで理解されていることが，マングローブ林へ新たな興味をもたらしてくれました。また，マングローブ林の調査をするたびに新知見に喜び，新疑問に悩むことの繰り返しのように多くの課題を読者に投げかけることでしょう。

マングローブの維持，利用，再生は一分野の研究で成立することはなく，いろいろな研究結果と意見を知ることが大切です。 マングローブ研究者をはじめ多くの方に役立てていただきたいと思います。